

インターバンクの声（2014年7月30日）

おととい月曜日には、水曜日に発表される米第2・四半期 GDP 速報値が「市場が期待しているよりも弱い内容になるのでは」との観測が流れ始めていたはずだが、昨日は一転して「堅調な数字になりそうだ」との見方になっている。さらに米連邦公開市場委員会（FOMC）の声明も、雇用の改善を背景にして利上げ時期が早まるようなタカ派寄りの姿勢が示されるのではとの声も出ており、ドルは対ユーロで8カ月ぶりの高値を付け、対円でも僅かながらも102円を超えてきた。今晚ニューヨーク時間に発表となる結果が、こうした予想に沿ったものであれば波乱はないだろうが、弱い GDP とハト派寄りの FOMC 声明となった場合の混乱には備えておきたい。相変わらず好調な企業決算の発表が続き、消費者信頼感の結果も良かったにも関わらずニューヨーク株式市場は下げた。欧米の対ロシア制裁に対する懸念が反映されたのは株式市場だけだったということか。イスラエルとパレスチナの対立は激化、中国では前最高指導部・政治局常務委員会のメンバーが「規律違反」で立件・捜査となることが決まったらしい。今日の FOMC が済めば、次の会合は9月中旬までないが、国際情勢の混乱に夏休みはなさそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。